

男と女は全く異質の
存在、当たり前だが
忘れやすい

「え、なんで!？」

男と女のケーススタディ

～ 講演録 ～

ケース1 すれ違う思いが破局に発展

男は食事、女は会話

ケース2 男が自信を失くすとき

男は応援されて自信を持ち、女は認められて自信を持つ

ケース3 何度も何度もぶり返す心の痛み

女は過去の痛みが忘れられない、男は自分の痛みが分からない

渡辺一典
Kazunori Watanabe



男と女はかくも違う!! 思い知ることから始まる!!

「え、なんで!？」男と女のケーススタディ

■ カナダの歯医者

カナダに留学していたときに、それはそれは、おいしいアイスクリームがあったんです。毎日それを食べていたら、歯が痛くなってきたんです。外国でこうなってくると困るのは、言葉が通じる歯医者が少ないということです。

何とか捜して、日本語が通じる歯医者に行きました。そこは、かっぶくのいい中年女性が治療するところでした。そこで事件が起きたのです。口を大きく開けるというものですから、ずーと開けっ放しにしていました。時間が長かったので、あごが疲れて、はずれてしまったのです。

おそらく、治療中にあごが外れるという体験をされた方も少ないでしょう。言葉に出せない苦しさ分かります? 思っても意志を表明することの出来ないもどかしさがあります。「あー」 という具合です。

ところが、それに気づかない歯医者。

「さあ、口を閉じて」と言われてもできないのです。

「あー、あー」

「早く、口を閉じてください」とせかされます。

「あー、あー」

「何をしてるんです。早く口を閉じてってば!!」

内心、「そんなの分かってるけど、できないし、苦しいし・・・」

やっとアシスタントの人が、気づいてくれて助かりました。「先生、ちょっと起こしてみましよう」と言い出して、少しからだが上向いたときに運よくもとにあごが戻ったのでした。

「あー、良かった。死ぬかと思った。」それにしても早く気づけよ!! 歯医者、と言いたくなりました。

人は、その人の状況が分からないと「なんで、言うことが聞けないんだ!!」と、つい自分からの見方で怒ってしまうことがあるのでないでしょうか。

その人の状況や、その人が何を望んでいるのか、どういう感覚があるのかということを知ることの大切さを思い知らされました。

1. 人によって感覚が全く違う

様々な方のカウンセリングをさせていただくとき思うことは、『人は、みんな身近な人と、愛情のあるいい関係を持ちたい』と思っているということです。

ところが、愛情と思って投げたボールが、相手にとっては愛情と感じられないどころか、デッドボールだったりするんです。するとカーッと怒るわけです。

今度は、当てられたほうが、バットを投げるというような負の連鎖が始まります。それで破局に至ったりするのです。

どうしてすれ違いが起こるかと言うと、相手も自分と同じような感覚、世界に住んでいると思ってしまうからです。

「私が、チョコが好きだから、あなたもチョコが好きね」

という感じです。実際は、「私はチョコが好きですが、あなたは何が好きですか？」と聞かなくてはならないのです。

同じように、まず男女が違うんだということが、骨身に染みて分かることが大切です。そのことをケーススタディを通して、ご一緒に考えてまいりましょう。



ケース1 すれ違う思いが破局に発展

まず、女性の気持ちを考えてみてください。

ある主婦の方は、ご主人に本当によく仕えたのです。かならず三度の食事は作り、風邪となれば看病し、食事も特別なものを用意するといったようにしていました。

ところが、あろうことか自分が風邪を引いてしまったのです。それでも、がまんしてご主人の食事を用意していたのですが、とうとうがまんしきれなくなって言ったのです。

「あなた、今晚の食事は、風邪がひどいのでつくれません」。

そしたらご主人は、「気にするな。俺は外で食べるから。」とすぐに言ったのです。この言葉に、奥さんは、いままでがまんしていたものが一気に吹き出たのです。

「なんですって！」